



Re-Tem  
終わらない話をしよう。

株式会社リーテム 〒101-0021 東京都千代田区外神田3-6-10 Tel 03-3258-8586 Fax 03-3251-5807 <http://www.re-tem.com/>

Less is More



環境報告書審査・登録マークは、当該環境報告書等に記載された環境情報の信頼性に関して、日本環境情報審査協会の定めた環境報告書審査・登録マーク付与基準を満たしていることを示すものである。



## CONTENTS

情報開示	.....2
コンプライアンス&リスクマネジメント	.....4
事業活動	.....8
広域的活動	.....10
環境教育	.....12
地域貢献・文化活動	.....14
ESGデータ	.....16
第三者監査報告書/会社概要・沿革	.....17

## 「小さな生活」を、大きな動きに。

### 「Less is More」。

その意味は、「より少ないことは、より豊かなことである」。20世紀モダニズム建築の旗手ミースが唱えた言葉です。無駄な装飾をそぎ落としたときに見えてくる、美の本質。ピュア・デザインこそが、人の感情を動かすと考えられていました。

### 「Less is More」。

その一言は、建築やデザインに限ったことではありません。自分にとって本当に大切なモノを見極め、過剰な装飾を削ぎ捨てる。それは、「小さな生活」。モノに惑わされることなく、自分の本質をしっかりと生きる。シンプルゆえに奥行き深い、心豊かな暮らしの在り方です。

そして、一人ひとりの「小さな生活」は、省資源による地球にやさしい生き方をも意味します。「小さな生活」を地球いっばいに広げ、人と環境の持続可能な共生へ繋げたい。

### 「終わらない話をしよう」。

リーテムはくじけぬ意志と揺ぎない足取りで、環境保全事業の総合カンパニーとして、CSR(企業の社会的責任)を果たし続けます。豊かな自然と、豊かな心を大地に育むために。



すべてを知ってもらうため、すべてを語りたい。

情報開示による、掛け替えのない信頼感

リーテムは、産業廃棄物処理の実情を世に広く伝える義務があると考えています。透明性ある情報開示が生み出す、信頼感と安心感。排出者の皆様と一緒に、環境問題について考えていきたい。共に地球を支えるパートナーとして。

「産廃ネット」による情報開示

産業廃棄物に対する一般の方々の信頼を回復するために、環境省によって優良化評価制度が2005年4月より運用されました。優良処理業者の適正な評価を通し、安全で安心な処理を浸透させます。

<評価基準>

- ・遵法性 (5年間、不利益処分を受けていないこと)
- ・情報公開 (インターネット上での、5年間の情報公開)
- ・環境保全への取り組み (ISO14001、エコアクション21等の第三者認証を受けている) ※2006年10月から適用

そして当社は、2005年8月12日より(財)産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット情報開示支援システム」にて、求められる情報を公開しました。

<http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index.php>

<情報公開で求められている7つの基準項目>

- ①会社情報 ②許可内容 ③施設及び処理の状況(施設概要、処理工程図、処理実績、維持管理記録)
- ④財務諸表 ⑤料金の提示方法 ⑥組織体制(社内組織、資格取得状況、講習会の受講状況) ⑦地域融和

自社ホームページによる情報開示

当社の事業理念及び活動内容を広く知っていただけるよう、自社のホームページを開示しています。リサイクルを身近に感じていただきたいという思いから、一般の方々でも基本からわかりやすく理解できる「リサイクル用語辞典」等を公開しています。  
<http://www.re-tem.com/>



CSR 報告書の発行

当社の取り組みを幅広く紹介し、皆様のご意見をいただくことを目的に2001年より環境報告書を発行してきました。本年からは当社の社会的責任を明確にし、また、様々なステークホルダーの皆様との関わりを深めるために「CSR報告書」を発行します。そして、社会的責任の重さを改めて自覚し、自らの行動指針としても活用していきます。

再資源化工程の明示

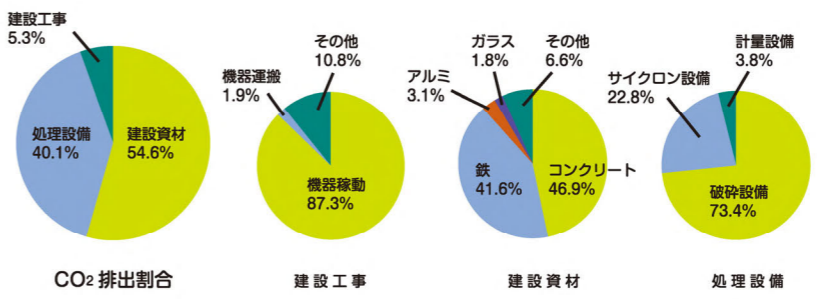
当社では廃製品等の再資源化を行う際、皆様のご要望に応じて工程や出荷先までを明らかにするため、「再資源化完了報告書」を提供しています。マニフェストだけでは確認できない廃棄のトレーサビリティの徹底は、排出者責任が問われる今、大きな安心感につながります。



LCA 調査

LCA(ライフサイクルアセスメント)とは、一つの製品が生まれてから一生を終えるまでの間(ライフサイクル)に、どれだけ環境負荷を与えたかを測る手法です。当社は水戸工場をモデルに、リサイクル工場における環境負荷データを収集・解析し、2003年に報告書を発行しました。そのデータを活かし、より環境負荷の少ない処理会社を目指して努力しています。

<業界初、建築LCAに着手>  
環境意識向上の一環として、東京工場の建設において、建設にどれだけエネルギーを要したかを測定する建築LCAを業界で初めて実施しました。まずは、「建設工事」「建設資材」「処理設備」の3つのプロセスに分類。「建設工事」では建設機械の稼働や土砂の運搬を、「建設資材」では工場基礎杭や建屋用の資材を、「処理設備」では工場に設置する処理設備の製造を、それぞれ消費エネルギーとしてCO<sub>2</sub>に換算して算出しました。そして、自己にも、周囲にも、環境負荷への意識を強めました。





## 法を守ること、リスクから守ること。

### CSR達成のための、徹底したコンプライアンスと リスクマネジメント

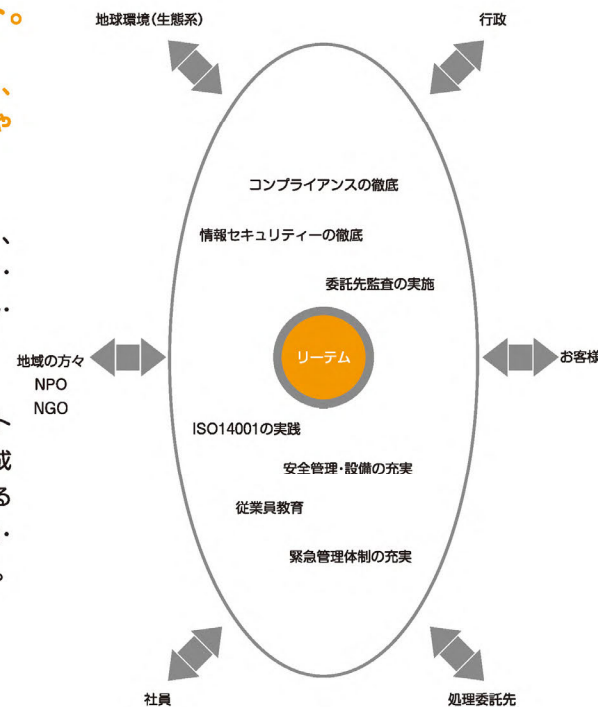
リーテムはスムーズに業務を遂行するべく、コンプライアンスとリスクマネジメントに真摯に取り組んできました。すべては、環境対策への先導者として、循環型社会の担い手として、廃棄物処理業への期待に応えるために。

## 大きな安心へと繋げる、リスクマネジメント。

リスクマネジメントは事業活動の過程で生じるリスクを減らし、健全な企業活動の継続を可能にします。それはつまり”お客様や社員の安心に繋がる”というCSRの実現でもあります。

当社では、リスクマネジメントを担う規格として、ISO14001、JISQ2001リスクマネジメントシステム、I SMS (情報セキュリティ・マネジメントシステム)を導入。これらの規格に基づいてマニュアル・手順書を整備し、全社ベースでリスクを管理しています。

リスクマネジメントの中心となるJISQ2001リスクマネジメントシステムは、リスク管理責任者と各部署より任命された委員で構成されるリスク管理委員会が主導役となり、年間を通じて活動するものです。特に中間処理後の処理委託先での違法行為・不法投棄・環境破壊等のトラブル回避を目指して委託先監査を実施しています。



## コンプライアンスを、全社員の行動指針に

産業廃棄物処理業は、業務遂行にて守るべきことが法令(廃掃法)に細かく規定されています。法令の内容を深く理解し、業務を適切に遂行することこそ、当社に課せられた重要な社会的責任のひとつ。責任を真摯に受け止め、社員は常にコンプライアンスを行動基準にしています。当社では、現在まで行政手続法に基づく行政罰、行政指導はありません。

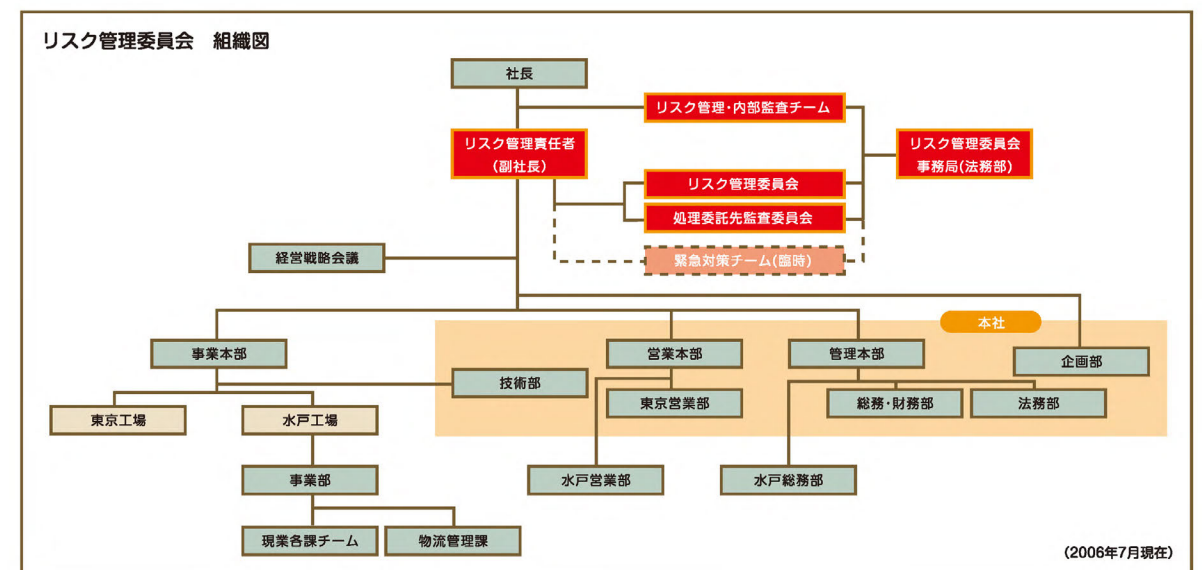
例えば、営業活動で初めてお客さまと接する時には、お客さまが果たさなければならない法的責任(排出事業者責任)をまずご理解いただくことを主眼に。また、処理委託先・出荷先を選定する際には、コンプライアンスを重視しているかどうかを前提条件にしています。

### ⇒お客さま(排出事業者)

当社社員が法令の内容をよく理解して、営業上の提案活動においてアドバイスさせていただくことで、お客さまの法令違反の防止に貢献します。また、当社を利用いただければ、中間処理段階での不祥事に伴う排出事業者責任を問われるリスクも低減します。

### ⇒行政

コンプライアンス重視の体制こそ、適正・安全な廃棄物処理を可能にします。当社は業界全体の在り方を視野に、行政から営業を許可された会社としての企業責任を果たすため、コンプライアンスを第一に重視しています。



## 委託先監査で、安心の輪を拡大

排出事業者責任を担うお客さまの要望に応えるため、当社から2次委託する処理品の処理状況や受入体制の把握を「委託先監査」として実施しています。これは、当社社員である監査委員がベアとなり、処理委託先の事業所を訪問・調査するものです。

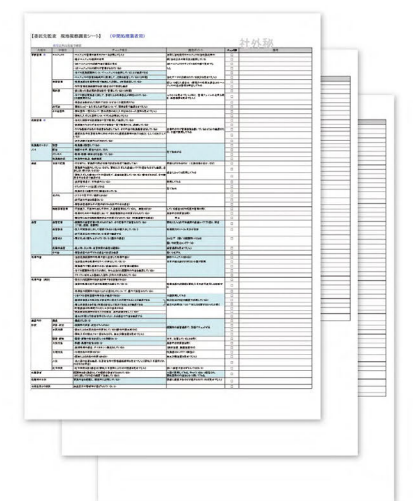
訪問の際に使用する調査シートは、環境問題に対する意識・手法・組織体制等の優劣を判断するために、同業他社の事故事例やリスク管理に関する研究書を参考に当社が独自に考案したものです。この委託先監査は、当社のリスクマネジメント活動の先駆けであり、大切な要素の一つです。

### ⇒お客さま(排出事業者)

当社が2次委託先以降のリスクを徹底管理するので、最終処理段階までの処理業者の不祥事に伴う排出事業者責任を問われるリスクが低減します。

### ⇒処理委託先

当社の調査によって、環境配慮やコンプライアンス状況、事業場の安全性等の様々な側面において見落としがちなリスクを拾い上げる機会となるため、企業としての信頼性をさらに高められます。



委託先監査調査用シートの例



## 独自の情報セキュリティとISMS認証

もとより当社では、お客さまの情報漏洩の防止について厳格に管理してきました。そして2005年には、ISMS(情報セキュリティ・マネジメントシステム)の認証を取得。受審に際して、社内での情報管理システムの構築及び社員への教育を実施し、社員のさらなる意識向上と共に情報管理の仕組みを堅固なものにしました。

### ⇒お客さま(排出事業者)

社外秘の情報が漏洩しないように、情報を含む廃棄物の保管場所の指定や、保管時の施錠等、徹底した情報管理サービスをご提供。お客さまが情報機器等のリサイクル処理を委託する際の心配や不確実性を解消しています。



## 迅速かつ的確な対応の中心、緊急対策委員会

緊急のリスク対策が必要なときに召集される会議が、緊急対策委員会です。精査された手順に従い、リスク管理責任者が、リスク対策検討に必要な情報をもった構成メンバーを召集します。すでに、緊急時の対応方法がマニュアル化されているので、迅速に的確な対応ができるようになっています。

### ⇒お客さま(排出事業者)

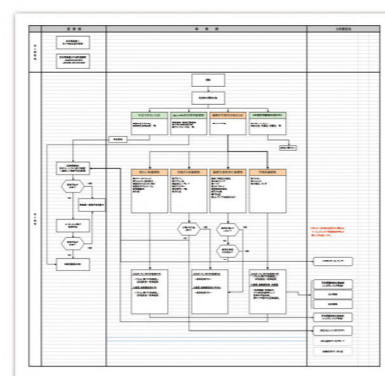
お客さま自身による事故と同様に、リサイクル処理を委託した先での事故は、排出者責任を問われるような実質被害をもたらす可能性があります。当社はそのようなお客様の不安を解消するため、未然防止に努め、万一の緊急事態発生時の措置や復旧、再発防止にまで備えを怠りません。

### ⇒地域の方々

リサイクル処理工場での業務や処理品運搬に際し、リスクや迷惑を被りやすいのが地域住民の方々です。当社は日常的にハザード管理を怠らず、事故率を低減すべく努力を積み重ねています。万が一の緊急事態が発生しても、適切な処置を迅速に実施し、被害の拡大を防止します。

## <緊急対策の実例:他社の事故を基に、より安全な処理法を確立>

2005年、同業他社での爆発事故を受け、各工場の担当者が緊急招集されました。処理手順及びその実施状況を聞き取り調査すると同時に、現場の一斉点検を実施。後日、事故の起きうるメカニズムについて技術部による説明・教育が行われ、当社扱い品の前処理方法に検討が加えられました。各メンバー相互に処理手順を再確認した後に、受入品目ごとの処理フローを作成。今まで担当者の判断に任されていた処理法がマニュアル化され、全社的に共有されました。



受入品目処理フローの例

## 環境保全カンパニーとして、自らも環境保全体制を整備して

環境保全意識の向上と環境汚染の防止のために、2001年ISO14001の認証を取得しました。環境マネジメントを運用するための体制・マニュアルを整備し、環境管理委員会を定期的に開催することで社内の環境活動を常に確認しています。

### ⇒地球環境

工場内における消費電力の削減、場内緑地化の推進から、工場発生廃棄物の少量化までを先導的に実施し、環境保全企業のあるべき姿勢を他社・他業界へ示すことで、環境活動をリードする努力を続けています。

### ⇒地域の方々

定期的な騒音・大気測定による工場周辺環境の向上及び、油水分離槽の監視による水質・土壌汚染防止に努力。環境のプロとして環境保全対策を実施し、確かな安全と大きな安心のもと、地域の方々と共に生きていきます。

### ⇒お客さま(排出事業者)

お客さまにご安心いただけるサービスを提供するために、自社の環境保全活動のご報告や培ったノウハウの公開は、環境ビジネスに従事する企業として当然の責務と考えています。2001年から毎年発行している環境報告書によって、積極的に情報を発信しています。

## (株)リーテム環境方針

- 【基本理念】  
(株)リーテムは、事業活動を通じてリサイクルの向上に貢献するとともに、事業活動すべての面で社員全員参加のもと、地球環境の保護及び保全に対して積極的に行動する。
- 【基本方針】
1. 資源の有効活用のために、さらに積極的にリサイクルの質の向上を図りかつ高度な処理技術・プロセスを開発することにより、地球環境の保全に努める。
  2. 地球環境の保護・保全活動を推進するために環境活動組織を整備し、環境関連法規・条約を遵守するとともに自主基準を設定し、環境管理の向上に努める。
  3. 環境管理の重点項目
    - ① 有効な成分を含んだ原料としての廃棄物の適正な管理を行いリサイクルの向上に努める。
    - ② 電気・油のエネルギー資源を有効に活用し、使用量の削減に努める。
    - ③ 水戸工場で受け入れるすべての物の取集運搬・荷受・事前選別・破碎処理・搬出に至る全工程において事故の発生防止と環境汚染の予防に努める。
  4. 環境方針達成のために、環境目的・目標を定め定期的に環境保全活動の見直しを行い、環境管理システムの継続的改善を図る。
  5. 内部環境監査の実施により環境管理システムの維持向上を図る。
  6. 関係官庁をはじめ地域住民・環境保護団体とのコミュニケーションを図り、環境保護・保全活動に貢献する。
  7. 全社員への教育・訓練を実施し、環境方針を周知徹底し意識の向上を図る。
  8. この環境方針は社内外に公表する。

平成12年6月10日制定  
(株)リーテム  
代表取締役 中島 賢一

## 社員自らが、安全・安心な職場を実現するために

工場内の通路は人車分離し、保護帽・保護眼鏡の装着を励行しています。安全管理委員会の委員経験者を増やし、工場作業や運搬作業での事故防止に奏効。社員の活発な意見交換や改善策の提案に耳をよく傾け、具体的な安全対策を適宜採用しています。

### ⇒社員

安心して働ける安全な労働環境は、社員にとっての絶対条件。社員自らが現場の危険に慣れることなく安全行動をとれるように、さらには危険を敏感に意識して改善する能力までを身に付けられるように、管理者を通じて常時きめ細やかに指導しています。そして、現場からの声を最重要視し、社員自身が納得できる改善策の採用を心がけています。

## リスクマネジメント教育は、会社のために、社員自身のために

廃掃法のポイントを知識として習得することを必須とした新人教育を実施し、当社として守るべきコンプライアンスを理解してから仕事に就きます。入社時には一定の期間、工場研修を受けて、当社の環境管理・情報漏洩管理に沿った工場作業を体験的に学習。また、ISO14001やISMSの規格に準拠した「新人教育」、「定期教育」を実施しています。

### ⇒社員

法令遵守、情報管理、環境保全、労働安全等について「どのようなリスクが存在するのか」「リスクを低減するために何が必要か」を全社員が理解し、個人のリスク管理能力の向上を目指して教育を実施しています。



工場でのリスクマネジメント教育



## 環境サイクル維持を、自らの手で。

### 独自の技術による、広範な環境保全事業

“遠い先”の未来のために、“少し先”の未来を見つめる。

地球規模で環境問題が急速に進む今、もう、悠長に

構えている時間はありません。だからこそ、リーテムは

自ら動くのです。3R(Reduce/Reuse/Recycle)を軸に、

資源循環型社会の構築を目指して。



## TOKYO



株式会社リーテム 東京工場  
所在地：東京都大田区城南島三丁目2番9号  
敷地面積：5,293m<sup>2</sup>  
事業内容：産業廃棄物処分業及び一般廃棄物処分業  
主要設備：特殊破碎システム一式  
フロン回収機1台  
処理能力：廃プラスチック類 432 t / 日  
混合物 864 t / 日

2005年度事業活動実績値(2005年7月稼働)  
産業廃棄物処理量：2,643,785kg  
有価物処理量：2,667,236kg  
(内、水戸工場からの搬入量)：912,820kg  
フロン回収量：0g \*1  
委託処理量：331,750kg  
電力使用量：182,827kWh (69,108.6kgCO<sub>2</sub>)  
軽油使用量：26,607L (69,825.8kgCO<sub>2</sub>)  
ガソリン使用量：2,538L (5,892.4kgCO<sub>2</sub>)  
オイル：136L  
グリース：80kg  
水道水使用量：628m<sup>3</sup>

\*1 フロン含有品は水戸工場へ搬出して回収

## HEAD QUARTER

株式会社リーテム 本社 電力使用量：53,189kWh (20,105.4kgCO<sub>2</sub>)  
水道水使用量：226m<sup>3</sup>

※( )内の数値は、「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案ver1.6)」(環境省)に基づき、使用エネルギーをCO<sub>2</sub>に換算したものです。  
※当社の処理システムでは化学物質を使用しないため、化学物質排出量は測定していません。

## MITO



株式会社リーテム 水戸工場  
所在地：茨城県東茨城郡茨城町長岡3520  
敷地面積：29,287m<sup>2</sup>  
事業内容：産業廃棄物処分業及び一般廃棄物処分業  
主要設備：破碎機2基、ギロンシャワー1基  
フロン回収機3台  
処理能力：破碎機 37.8 t / 日  
切断機 80.0 t / 日

2005年度事業活動実績値  
産業廃棄物処理量：15,760,953kg  
有価物処理量：9,922,942kg  
(内、東京工場からの搬入量)：1,464,610kg  
フロン回収量：834kg  
委託処理量：4,049,967kg  
電力使用量：1,147,670kWh (433,819.3kgCO<sub>2</sub>)  
軽油使用量：116,833L (306,609.5kgCO<sub>2</sub>)  
ガソリン使用量：15,935L (36,995.7kgCO<sub>2</sub>)  
オイル：9,612L \*2  
グリース：264kg  
水道水使用量：768m<sup>3</sup>

\*2 オイルは、5年に1度の切断機メンテナンスに使用

### TOKYO SUPER ECO-TOWN

東京スーパーエコタウンの一翼として。

廃棄物問題の解決と、循環型社会への変革を、東京から。東京スーパーエコタウンでは、都市再生プロジェクトとして「大都市圏におけるごみゼロ型都市の再構築」を目指し、都に選定された民間企業が有機的な結合を図ってより良い環境貢献を果たしています。東京工場は複合廃棄物の総合リサイクル事業者として、事務系廃棄物、OA機器、廃プラ等の幅広い受入と徹底したセキュリティを特徴に躍進。各社は相互に協力し、受け入れた廃棄物のタウン内での完結処理を目指しています。

### CONSULTING

環境のプロとして、個別のコンサルティングを。

それぞれの企業に最適な環境対応をご提案するために、当社は従来のリサイクル事業の枠を超越し、複雑化する環境問題への企業としての対応をサポートするコンサルティング事業も展開しています。各企業のCSR活動における環境対応など、企業が主体となるスキーム作りにも動的に関わるため、個別のコンサルティングに尽力。現状のヒアリングを十分に行い、課題を把握・理解した上でプレゼンテーション、提案書などのツールを取り入れて個々の企業の要望に取り組んでいます。

## RECYCLE 時代の声に応える、柔軟なリサイクルソリューション。

OA機器、金属系スクラップ、事務机等の什器類・・・様々な種類の廃棄物が大量に排出される現代、いかに効率的に多くを処理し、かつ最終処分を行わないかが重要です。当社はこの現代社会のニーズに応えるべく、多様な廃棄物を環境負荷の低いシステムで効率良く再資源化し、最終処分量を抑制。ゼロエミッション型リサイクル処理システムを構築するに至りました。

20世紀後半から、特に問題化しているのが、IT社会の発展と共に急激に浸透したパソコン等のOA機器です。性能が日進月歩ゆえに製品寿命が短く、次々と廃棄物へとその姿を変えていきます。さらに、金属やプラスチックが複雑に組み合わせられた構造であるために、再資源化が困難であるという問題も抱え、大量廃棄時の有効な処理システムが大きな課題になっていました。

そこで、水戸工場では1993年からいち早く、OAをはじめとする情報通信機器類・金属樹脂複合物を効率良く再資源化する独自の処理システムを稼働させました。独自の破碎システムによって各種金属や樹脂等の素材ごとに分離回収する高効率の再資源化と、火や薬品を使用しないという低環境負荷とを両立化させています。当社の環境テクノロジーは、社会的ニーズと共に不断の進化を続けます。

また、2005年7月には東京スーパーエコタウンにて東京工場が稼働を開始。首都圏という廃棄物の大量排出地に工場を開設することで、迅速な処理と物流等の低コスト化を実現しました。処理システムには、水戸工場で構築・改良を重ねて再資源化効率を極めた設備を。さらには、処理量と処理品質の相反する2つのニーズに対応するため、2つの工場がスムーズに連携します。東京工場の成果物の一部を水戸工場で再処理するといった、当社ならではの総合処理システムです。

## REUSE 新たな価値を創造し続ける、リユース進化系。

廃棄物の効率的な再資源化＝リサイクルが求められる一方、使用済み製品の部品を取り出して、新製品に組み込んで再利用するリユースへの要望も年々高くなっています。循環型社会構築のために、処理に伴う環境負荷がより低いリユースとリサイクルをバランスよく並行して実施する必要性が世に問われる今、もちろん当社においても、リサイクルシステムの運用と共にリユース事業を推進しています。

水戸工場ではメーカーと共同で廃棄製品の解体・部品回収のラインを運用し、メーカーのリユース率の向上に貢献。また、解体作業の分析やデータの収集を行い、よりリユースしやすい製品を目指し設計研究の段階から協力しています。

東京工場においても、水戸工場でのリユースライン稼働の実績を受け、作業効率やライン設置の自由度を向上させるため、広く開放的な解体スペースを設計時に確保・建設しています。物流・消費の一大拠点である東京の地の利を活かした回収・リユース／リサイクルシステムの構築を、メーカーと共に進めています。

2005年には水戸工場の近くにリユースの専門工場を開設しました。静電気防止設備等を備えた部品回収ラインを設置し、従来よりも品質の高いリユースを実施しています。搬入された廃棄製品から回収したリユースパーツはメーカーに。そして、他の部分はプラスチックやアルミ等の素材ごとに分別してから原料として出荷し、複合材は水戸工場で破碎してリサイクルするという連携処理を行っています。







## 意志と意志とが、環境の輪をつなぐ。

### 広域的な循環型社会の構築

一人の力だけでは、環境問題を解決することはできません。たとえ一社の力でも・・・、さらには一国の力でも・・・。今こそ、地球規模の連携を。小さな努力や意志でも、それが重なれば必ずや大きな成果をもたらすと信じて、リーテムは広域的な環境活動を積極的に推進しています。

## 日本全国を網羅するリサイクルネットワーク。

### J・RIC(Japan Recycle Improvement Committee)

全国で排出される廃棄物をすべて当社で集荷することは、運送時に発生するCO<sub>2</sub>の排出を増大させることに繋がってしまいます。そのため当社では、排出場所の近くで再資源化処理ができるよう、全国リサイクルネットワーク<J・RIC>を1998年から運営しています。少しでも、少しでもCO<sub>2</sub>を減らすために。

当社が事務局として、31社51拠点のネットワークを連携させることで、廃棄物運搬にかかる費用や処理コストを飛躍的に低減しました。排出事業者にとって、より効率的で利便性の高いリサイクルシステムです。また、事務局が受付後に、排出から、廃棄、マニフェスト(産業廃棄物管理票)管理までのフローを一元管理するので、排出事業者の事務作業も軽減されます。

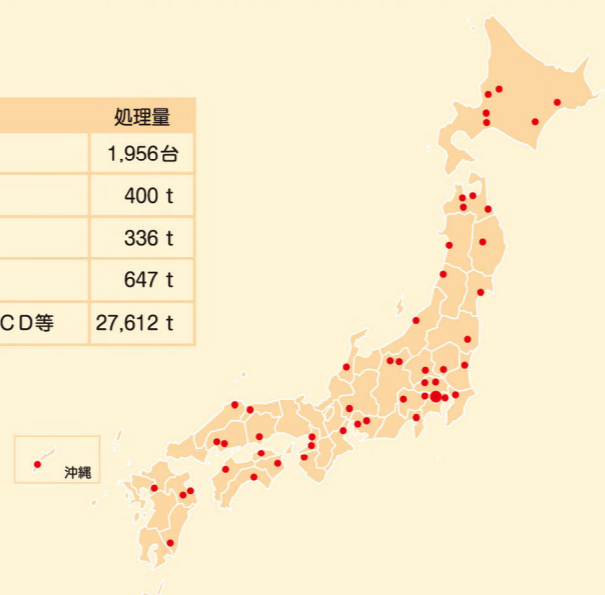
当社は事務局の責任として、ネットワークの全社それぞれにコンプライアンス重視とお客さまに対する情報の透明性を第一に活動するように啓蒙してきました。そして今、安心できる信頼のリサイクルサービスは、当社を中心として全国に広がっています。

### J・RICのメリット(特徴)

- ・コンプライアンス重視
- ・適正処理
- ・情報の透明性
- ・物流時における環境負荷低減
- ・物流コストの低減
- ・マニフェスト管理の一元化

### 2005年度処理実績

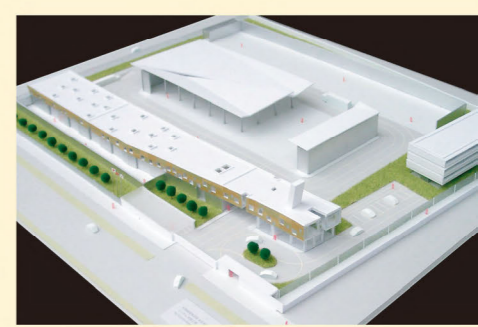
項目	処理量
ビール自動販売機	1,956台
ビールサーバー	400 t
情報機器販売会社什器備品	336 t
コンビニ什器備品	647 t
OA機器、複写機、ATM/CD等	27,612 t



## 中国における、先進的リサイクルモデル構築へ。

### リーテム中国工場

資源国際循環の大きな流れに対応して、先進的リサイクル事業のモデル構築を目指し、中国工場の建設をスタートしました。建設地は、中国経済の中心地である上海市郊外、江蘇省太倉市のリサイクル団地です。太倉市は揚子江に面した良港に恵まれ、資源国際循環拠点としても、日本から進出した企業の現地発生産業廃棄物処理拠点としても、良好なロケーションを有しています。新中国工場には、日本と同様、徹底した環境管理とゼロエミッション型リサイクルシステムを導入。日本からの再資源化物の輸入についても、トレーサビリティシステムを活かしたフロー全体管理、透明性の確保によるモデルシステムの構築を進めていきます。工場外観は、廃棄物処理工場の既成概念を超えるモダンデザイン。それはまるで、中国における新しいリサイクルの在り方を提示するかのよう。2007年中の本格稼働を目指し、当社の強固な意志は海を渡っていきます。



中国工場完成模型

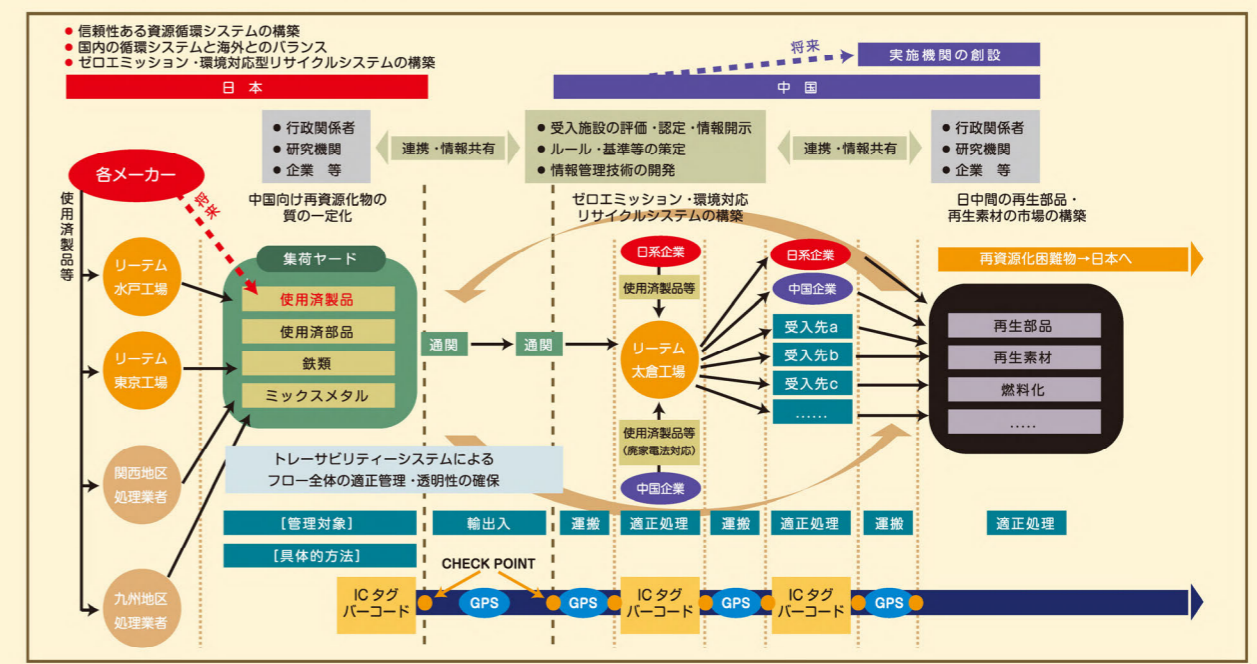
## 日本国内だけでは、もう、リサイクルは完結しない。

### 国境を越えた資源循環の適正化

製造拠点の海外への移転に伴い、再生資源が使用される場所も日本国内から海外、特にアジア諸国へと移行しています。消費された場所から製造される場所へとモノを還流することがリサイクルの仕事だと考えると、今後、国境を越えた資源循環活動が必須になることでしょう。現実に、鉄くず、廃プラといった再生資源の多くが、中国を中心としたアジア諸国へと大量に輸出されています。しかし、その国際間の資源循環は種々の問題を内包しています。輸出先で利用可能な資源が回収・リサイクルされているものの、十分なインフラなしに処理・処分され、環境汚染を起こしているケースが多々見られるのです。

当社ではこのような状況を打開するため、国際間においても日本同様に適正な資源循環システムを構築し、モデルケースとして広く国際社会に提案していきたいと考えています。その第一歩として、2005年度経済産業省委託事業である「トレーサビリティを確保した資源循環ネットワークの構築に関する調査」を実施。早稲田大学環境総合研究センターとの産学協同プロジェクトとして推進し、トレーサビリティシステムの開発調査についてはアースデザインインターナショナル株式会社にご協力いただきました。再生資源の移動や適正処理・処分の方法を追跡・確認できるシステムの構築によって、国際資源循環に対する各国の認識を高め、日本だけでなくアジア地域での環境保全をリードしていきます。

### <国際資源循環(日本・中国間)構想図>





## 環境問題を、他人事でなく、自分自身の事として。

### 現場からの生の声で語り継ぐ、深みある環境教育

環境問題は、一世代に託された一時期だけのものではありません。環境意識を継承し、持続可能な共生をもちますために。環境を守る大切さや環境に配慮した暮らし方を、教え、育む。リーテムは環境保全企業だからこそ豊富な知識と説得力をもって、業界の壁も、世代の壁も超越した、ボーダレスで連続性のある環境教育を担っていきます。



## 若い世代にこそ、環境意識を芽生えさせ、育んで。

### 体験型の工場見学

当社では、水戸・東京工場に一般の方々の見学を広く受け入れ、資源の枯渇や再資源化の重要性をテーマに環境教育を実施しています。従来の廃棄物処理施設に持たれがちであった閉鎖的イメージを払拭する、開放的な工場見学を通し、最新のリサイクル技術と環境問題に触れていただける機会を提供します。

各工場共に見学者用の広い説明スペースを設け、ビデオ映像等によって処理システムや環境問題をわかりやすく説明しています。また、パソコンの解体モデルで実際に部品ごとに分解・選別してもらい、各部品のリユース・リサイクル状況を解説。身近な製品を通し、環境意識を深めていただきたいと思います。

とくに東京工場においては、見学者専用コースを設置し、安全な場所から作業の様子が見学できるようになりました。また、防音壁等によって囲まれているために直接見ることでできない稼働中の機械の様子も、ビデオカメラを通して処理状況がリアルタイムで確認できます。

昨年度も、水戸工場では環境問題をテーマとした自治体主催の見学会を受け入れ、一般の参加者にリサイクルについて学んでいただきました。東京工場には、修学旅行中のテーマ学習として中学生が見学を訪れ、「東京都の環境に対する取り組みについて詳しく知ることができました。3Rを周りに広め、研究を深めていきたい」と感想文をいただいています。社会における環境意識の裾野の広がりを実感する中、今後もCSRの一環として見学者を受け入れ、環境教育を継続していきます。



## 安心と信頼のビジネスパートナーとして。

### 顧客の満足する工場

自分たちの廃棄物が、どこで、どのように処理されているのか？当社の事業活動をご理解いただくために、営業活動の中では、工場見学を積極的に推進しています。ご自身の目で処理状況を確認してはじめて得られる、大きな安心と絶対的な信頼。水戸工場と東京工場、それぞれ規模も特性も違う2つの工場ですが、適切な処理への姿勢や、顧客への責任感に違いはありません。廃製品などが前処理を経て再資源化あるいは再利用されていく工程や、そこで働く社員の活気や整理整頓された職場環境等を排出者自らご覧いただくことで、ビジネスパートナーとしての信頼に真摯にお応えします。

## スーパーエコタウンの意志を浸透させるために。

### 「環境展」への参加

2005年5月24日～27日に東京ビックサイトで開催され、好評のもとに幕を下ろした「2005環境展」。当社は東京スーパーエコタウン協議会の一員として、出展に参画しました。スーパーエコタウンの認知を拡大するために、ブース内に事業内容や再資源化後の成果物を展示し、来場者と積極的に対話させていただきました。ダイレクトなコミュニケーションを大切に、環境意識の浸透に努めています。

## 環境保全企業に対する社会のニーズへ敏感に。

### 取材・講演活動

環境問題への社会的関心が高まるにつれ、当社の事業内容や理念に対する取材や講演依頼が増えてきました。最新情報をごちから発信すると共に、「取材側の目的を知ること＝社会のニーズを知る機会」と捉え、取材を積極的に受け入れています。業界の独断に留まることなく、あくまで社会の一員としてCSRを達成するために、当社は社会全体へアンテナを張り巡らしています。



実施年月	主催	講演・寄稿・発表内容
2005年11月	The Nonferrous Metals Society of China	Introduction of Recycle System Aimed for Environmental Protection in China
2005年11月	大田区 / (財)大田区産業振興協会	繁栄の忘れ物をリサイクルする企業をめざして
2005年11月	ライオンズクラブ国際協会	・環境問題のとらえかたについて ・ビジネスを取り巻く環境リスクについて
2005年12月	廃棄物学会	国際資源循環の現状と展望



エコ社会の一員として、できることのすべてを。

### 地域社会への、事業成果の還元

廃棄物処理業は地域住民の皆さまのご理解とご協力があってこそ成立していると、リーテムは常に自覚しています。だからこそ思うのです、事業成果は地域社会に還元すべきであると。そして、環境意識を地域社会にしっかりと育み、全国へ、世界へと広げていければと願っています。

バリアフリーな社会を、環境保全企業から。

### 社会福祉

当社は、障害者の自立支援等の福祉活動を通して社会に貢献しています。水戸工場では社会福祉法人自立奉仕会の茨城福祉工場と協力。廃製品の分解選別作業等を委託し、部品のリユースやリサイクルにご参加いただいています。また、水戸高等養護学校から水戸工場へと研修生を定期的な受け入れ、就業訓練の場としてご活用いただいております。研修生の中には当社に就職して活躍している方もいます。

また、東京工場は当初からバリアフリー施設として設計され、障害者専用エレベーターや駐車場・スロープ等を設置。東京都から身体障害者施設適合マークを受けています。各所が障害者の方の来場に支障がないよう工夫されているので、幅広い見学者の受け入れが可能です。将来的には水戸工場と同様に、障害者の方々と共に作業を行えるボーダレスな工場を目指しています。

環境問題への警笛を、地域社会から。

### 地域貢献

当社は廃棄物処理技術や事業活動を通して、当社ならではの地域貢献を推進しています。身近な環境破壊の例である不法投棄問題では、水戸工場で地元自治体と協力して不法投棄された廃棄物の回収・処理から、再資源化までを一貫して請け負っています。また、茨城県産業廃棄物協会主催の不法投棄監視パトロールに随時参加し、不法投棄の抑制や投棄場所の特定に尽力しています。

2005年に茨城県笠間市に完成した、県内初の公共関与型最終処分場「エコフロンティアかさま」(財団法人 茨城県環境保全事業団)で開催された子供向けの社会科見学会では、説明に使用する各種リサイクル素材を提供しました。「エコフロンティアかさま」内に常設展示される予定の環境学習施設においては、リサイクルをわかりやすく解説するビデオ教材として、水戸工場のリサイクルシステムの稼働映像を提供し、地域社会の環境意識向上に協力します。



環境問題を、多彩なアーティストが翻訳。

### リサイクル工場の現代芸術

東京工場のオープニングは、既成概念を大きく超えるものでした。来場客を迎えたのは、様々な現代芸術。なぜ、工場のオープニングに現代芸術なのか。それは、工場の音や風景を見たアーティストの視点を通し、来場客自らがリサイクルへの認識を見直す機会を創出するためでした。それぞれの立場を超え、リサイクルの背景にある環境問題にどう対峙していくか。業として参加、アートとして参加、観客として参加・・・、あらゆる立場の人々そして考えや視点が、リサイクル工場に一堂集結することに意味があったのです。また、オープニングイベントの一環として、来場された方にYMCA障害児支援プログラムへの寄金を募集し、さらに当社からの差額を加えて、50万円を寄付いたしました。

開催期間：2005年5月13日～29日 一般来場者数：2387人

経済や戦争から、環境破壊を問いかける。

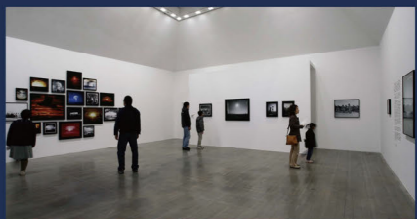
### 水戸芸術館の展覧会協賛

当社発祥の地、水戸市。そこで国内外の高い評価を受けている水戸芸術館の展覧会に協賛しました。経済中心の社会がもたらした現実の表象、貧困や戦争の中で生活している人々の心象が、芸術を通して迫ってくる、メッセージ性の高い展覧会。戦争は最大の環境破壊であり、先進国による後進国の資源の搾取や、経済効果中心の企業活動によって生じた歪こそ環境問題そのものです。経済と環境のバランスを、一人ひとりへ、世界へと問いかけました。

開催期間：2006年2月25日～5月7日 来場者数：9509人



クリスチャン・マークレー「リサイクリング・サークル」2005  
「Variations on a Silence—リサイクル工場の現代芸術」展  
リーテム東京工場での展示風景



マイケル・ライト「100 SUNS」2003年より  
「人間の未来へ—ダークサイドからの逃走」展  
水戸芸術館現代美術センターでの展示風景 2006年  
撮影：齋藤剛

見えなかったものが、見えてくる瞬間。

### 環境意識を心に芽生えさせる、多面的な文化活動

同じアングルからは、同じものしか見えてこないから。

だからこそ、リーテムは既存の手法を超越し、様々な形で人々に

語りかけるのです。ときにアートという形で、ときに音楽という形で。

環境保全企業のメッセージが、理性だけでなく、感性へ届いたとき、

環境意識が真に人の心に宿ると信じて。



環境目的・目標

当社は、事業活動から生じるプラスとマイナスの環境側面を併せて抽出・評価し、特定の環境側面における定常状態、非定常状態、緊急事態の各々の環境影響を評価しています。その結果から、環境影響の著しい項目を決定し、環境目的・目標を作成。前年度の運用成果に応じて独自の是正・予防の手順に基づき、翌年度の目的・目標の見直しを行っています。

環境会計によるコスト集計

環境保全活動のためのコストを、当社の環境目的に対応したコスト(積極的成本)、法規制遵守のためのコスト、環境マネジメントシステム運用・管理コスト(EMSコスト)の3つに分類。今年度の目標に対応するコストと効果の情報を翌年度以降の活動の効率化に役立てるため、コストマネジメントを確実に続けています。

環境目的・目標 2005年度の環境会計(単位:千円)

環境側面項目	責任部署	目的(2007年度達成を目指して)	2005年度の目標	達成方法(具体的取組)	達成状況(環境効果)	投資	コスト	
原料(プラスの側面)	鹿OA機器等、 鹿モーター・ コンプレッサ P-1での生産量	事業部(MR) 水戸営業部 東京営業部	生産増に伴う負荷低減への寄与 1999年度を基準に3年間で 6%生産増	生産量2%増 (累計54%増)	① 処理量確保のための積極的な営業活動 ② 処理能力の向上 処理稼働率の向上 処理単位時間当たりの処理量向上	98.0%	5,514	---
電力の使用	MR・P-1全般	事業部(MR)	電力原単位(生産量当たり)の低減 2000年度下期実績を基準に 3年間で3%減	原単位1%減 (累計4%減)	① 安定負荷操業による稼働率向上 ② 点検補修強化による稼働率の向上	96.0%	---	19,416
	切断機(シャワー)	事業部(IR)	電力原単位(生産量当たり)の低減 2001年7月~2002年3月実績を 基準に3年間で3%減	原単位1%減 (累計4%減)		97.9%	---	1,788
廃棄物の削減(水戸事務所発生分)	水戸工場 事務所共通		廃棄物の削減(一人当たり発生量) 2004年7月~2005年3月実績を 基準に3年間で12%減	3%削減	① 古紙分別によるリサイクル量の増大 ② 使用済みコピー用紙専用 シュレッダー設置	64.6%	---	---
緑地化の推進(プラスの側面)	景観及び 地球温暖化防止	水戸総務部	緑地面積の拡大 3年間で対敷地面積2.5%造成	対敷地面積 1.5%造成	① 緑化内容の検討、決定 ② 緑地の実施の人員、費用の計画的確保	109.5%	1,970	---
漏油の発生	地下汚染	工場共通項	漏油の地下浸透防止 5,000m <sup>2</sup> コンクリート又は アスファルト舗装実施	舗装面積 5,000m <sup>2</sup>	① 舗装方法の検討、決定 ② 舗装の実施の人員、費用の計画的確保	61.1%	4,920	123
啓蒙・普及活動の推進(プラスの側面)	総務・財務部 企画部		ホームページ(HP)へのアクセス 件数を2004年9月~2005年3月 実績を基準に3年間で9%増加	HPアクセス件数 3%増	① HPの継続的更新 ② 名刺にURLの印刷 ③ 環境報告書への掲載	132.1%	---	1,720
	東京営業部		2004年度実績を基準に 接客数を3年間で15%増加	接客件数5%増	① 顧客データの分析に基づいたアプローチ ② 徹底したデータ管理とフォロー	132.6%	107	---
環境目的に対応したコスト(積極コスト)						12,511	23,047	

環境関連法規制の遵守のためのコスト	①騒音管理 ②廃棄物管理 ③環境アセス ④集塵設備の定期点検補修	※1	---	64,108
ISO14001環境マネジメントシステムの運用・管理コスト(EMSコスト)	①環境監査の定期的実施 ②EMS連絡会の運営 ③社内の環境教育 ④環境報告書の作成	※2	---	13,907
合計			12,511	101,062

※1 環境関連法規制の遵守を徹底しました。 ※2 上記環境目的・目標を達成し、環境マネジメントシステムの維持的改善を進めました。  
【表】の説明 ◆該当期間:2005年4月~2006年3月◆設備投資費用:初期投資額を「投資」として計上しています。減価償却費は含めていません。◆生産量:手解体及びリーテムプロセスでの処理量を「生産量」と定義しています。◆対象範囲は、ISO14001を取得している本社及び水戸工場です。(東京工場は2006年度取得予定です。)

株式会社リーテム  
代表取締役社長 中島 賢一 殿

株式会社トーマツ環境品質研究所  
代表取締役社長 古室正充

1. 審査の対象及び目的  
当環境品質研究所は、株式会社リーテム(以下「会社」という)が作成した「RE-TEM 2006 CSR REPORT」(以下「報告書」という)に関し、報告書に記載されている重要な環境情報が「環境報告書ガイドライン2003年度版」(環境省)を参考にし、会社が採用した算出方法等に従って正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することを目的として審査を実施した。
2. 経営者及び報告書の審査を行う者の責任  
報告書の作成責任は会社の経営者にあり、当環境品質研究所の責任は、独立の立場から報告書に対する結論を表明することにある。
3. 実施した審査の概要  
当環境品質研究所は、当該審査の結論表明にあたって限定的な保証を与えるために十分に有意な水準の基礎を得るため、「国際保証業務基準(ISAIE)3000」(2003年12月国際会計士連盟)、「環境報告書審査基準案」(平成16年3月 環境省)、「環境情報審査実務指針」(2006年1月 日本環境情報審査協会)を参考に審査を行った。
4. 結論  
審査の結果、報告書に記載されている重要な環境情報が、「環境報告書ガイドライン2003年度版」(環境省)を参考にし、会社が採用した算出方法等に従って、正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。
5. 特定の利害関係  
会社と当環境品質研究所又は審査人との間には、日本環境情報審査協会の規定に準じて記載すべき利害関係はない。

以上

株式会社リーテム 会社概要

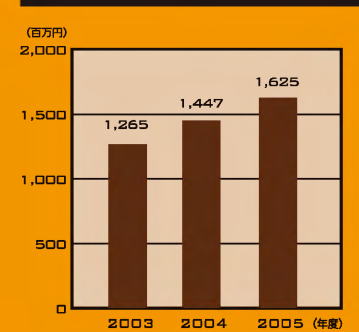
本社所在地 〒101-0021 東京都千代田区外神田 3-6-10  
TEL: 03-3258-8586 IP: 050-3541-7212 FAX: 03-3251-5807

事業所 水戸工場  
所在地 〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3 5 2 0  
TEL: 029-292-1220 FAX: 029-292-1225

事業所 東京工場  
所在地 〒143-0002 東京都大田区城南島 3-2-9  
TEL: 03-3790-2100 IP: 050-3541-5411 FAX: 03-3799-8500

資本金 3,600万円  
代表者 代表取締役 中島 賢一  
創業 明治 42 年 (1909 年)  
会社設立 昭和 26 年 (1951 年)  
事業内容 鉄系複合材のリサイクル / OA 機器・電子電気機器類のリサイクル / パーツ等のリユース / 製鋼原料及び非鉄貴金属原料の売買 / 建築物及び工作物の解体、移設、撤去 / リサイクルに関するコンサルティング

売上高の推移 (単位:百万円/縦軸表示)



会社沿革

平成5年(1993年)9月 リーテム・リサイクルシステム(プロセスI)導入  
平成9年(1997年)4月 株式会社リーテムに社名変更  
平成10年(1998年)7月 リサイクルの全国ネットワークJ・R・I・Cを組織化  
平成13年(2001年)1月 環境マネジメントの国際規格ISO14001取得(登録番号E214)  
平成16年(2004年)3月 日本環境経営大賞 環境経営優秀賞受賞  
平成17年(2005年)5月 大田区城南島に東京工場竣工  
平成17年(2005年)11月 情報セキュリティのBS7799 / ISMS 認証取得(登録番号IS98262/IJ01760)

報告書の範囲  
本報告書は、株式会社リーテムの全事業所(本社及び水戸工場・東京工場)における2005年度(2005年4月~2006年3月)の事業活動を対象としています。尚、一部期間以降の報告も含まれます。問い合わせ先:株式会社リーテム企画部 電話03-3258-8586  
この報告書は「環境報告書ガイドライン2003年度版」(環境省)を参考に作成しています。